NPO法人自然と緑

NPO 法人自然と緑会報 2024 年 7 月 1 日発行第 137 号

特定非営利活動法人自然と緑
代表者　伊藤 孝美
〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35
大阪市教育会館（アネックス パル法円坂）4 階
TEL：06-6809-1700 FAX：06-6809-2702
E-mail： info-sm@shizen-midori.org
URL：　 https://shizen-midori.org

第２６回通常総会議事録（抄録）

議事録作成者　西田博理事、山下明美理事

１．日　　時　２０２４年６月１日（土）　１４時から１６時２０分まで
２．開催場所　大阪市中央区法円坂１－１－３５　大阪市教育会館３階１号室
３．議長等の選任

・定刻に至り、司会者瀧原勇理事は、本日通常総会は定款による定足数を満たしたので有効に成立する旨を告げ、議長に竹内一郎理事を全員の承認で選任し、第２６回通常総会の開催を宣言した。
・伊藤孝美理事長の挨拶の後、来賓の自然大学学長の渡辺弘之氏を紹介し挨拶を頂いた。また、全国林野労組近畿中国地方本部執行委員長 田上富二男氏からメッセージを頂き披露した。
・議長は議事録署名人に伊藤孝美理事長、松田純一会員を選出し全員の承諾で選任された。議事運営・資格審査委員に神崎トモ子会員を指名したところ全員異議なく承認された。
・議長は神崎トモ子議事運営・資格審査委員から現在の正会員数は 215 名、出席会員数は 33 名、委任状 120 名、計１５３名により過半数との報告を受け、14 時 20 分総会は有効に成立している旨を告げ議事に入った。

司会 瀧原理事

伊藤理事長

来賓 渡辺先生

議長 竹内理事

神崎委員

４．議　事

◎【第１号議案　2023 年度事業報告】について上田豪副理事長が、【第 2 号議案　2023 年度活動計算書】について本田良一理事が、【２０２３年度監査結果】について佐々木泰彦監事が報告を行った。

【質問】（山川亮二会員）会員の年齢構成はどうなっているのか。
【答弁】（山下明美理事）年齢構成は把握していないが、後で構成年齢を報告する。20 代は 1 名いる。
60 代、70 代がほとんど。65 歳に定年が延長され、まして若い世代の NPO に関する社会活動は難しい。
第 1 号議案、第 2 号議案は過半数の賛成により承認された。
（休憩 15 時～１５時１５分）
【修正】（上田豪副理事長）第１号議案Ｐ３の記載した「父兄」を「保護者」とする。　近江馬ケ瀬山ふれあいの森のクロミノニシゴリの観察報告は秋にもしていることを修正する。

－137号目次－

p 1～2	第26回通常総会議事録（抄録）	
p 3	森林の生態に関する自然大学の講義をはじめて担当して	大阪公立大学大学院教授　伊東明
p 3～4	高田副理事長退任/牧野副理事長就任/諸冨理事就任（ご挨拶）	高田七重／牧野道夫／諸冨真澄
p 4～5	渡辺弘之の未解決事件簿（19） 奄美大島にはモダマは本当に一本しかないのか？	自然と緑学長　渡辺弘之
p 6	第28期自然大学　春日山照葉樹林生態実習感想文（抜粋）	28期自然大学受講生
p 7	「これなんだろう・何故だろう」	自然と緑理事長　伊藤孝美
p 7	大阪経済法科大学里山整備に初参加	インタビュアー　小島和江
p 7	新刊紹介　伊藤吉夫『関西の山野草自生地巡り』	推薦：自然と緑学長　渡辺弘之
p 8	「これなんだろう・何故だろう」の答	自然と緑理事長　伊藤孝美
p 8	活動報告／寄付等の御礼／編集雑記	自然と緑会報編集部

◎【第３号議案　2024 年度事業計画】について牧野道夫理事が、【第４号議案　2024 年度活動予算書】について本田良一理事が提案を行った。

【質問】（山川亮二会員）広報でホームページ等での経費節減の内訳人数を知りたい。

【答弁】（関澤友規子理事）ホームページ閲覧は 35 人、Ｅメールは 52 人、残りは紙印刷となっている。経費節減は年間１人 1,375 円、約１２万円の節減の見込みとなった。２９期は紙配信だがメール配信でいいといっている人もいる。

【質問】（山川亮二会員）郵送 123 人。どうフォローしていくのか。

【答弁】（本田良一理事）財政厳しい。削減するものは削減する。

【質問】（山川亮二会員）今はメールよりもラインが多い。123 人を段階的にゼロにする施策を聞きたい。

【答弁】（関澤友規子理事）秋までに会員にお願いしていく。

【質問】（橋木啓子会員）会員数２１５名。予算書では１９１名。数の違いはどうなっているか。

【答弁】（山下明美理事）2023 年度の会員は 200 名、2024 年度の新規会員 15 名で計 215 名となっている。

【質問】（橋木啓子会員）２１５名から減っている。財政が厳しいという事を知っている人はいるか。もう少し周知してはどうか。入るよりやめるほうが多い。

【答弁】（瀧原勇理事）会員の方に財政が厳しいことをアピールしていきたい。他に助成金獲得に力を入れている。

２件は落選して、現在６件申請を予定している。取り込んでいけば赤字が減っていく。

【提案】（山川亮二会員）郵送の１２３人。シニアでもスマホ、ネット等８割は使っている。
半年の間に変えることをやってみては。個人的には１０００円会費をあげてもいいのではないか。

【答弁】（瀧原勇理事）限りなく紙の媒体を減らしていく。今年度、自然大学、ステップアップは値上げを実施した。会費の値上げは会員が減っていくのではと思った。さらに議論をしていくようにしたい。

【提案】（大東弘会員）紙は樹木を使っている。紙を使わないことは環境を守ることに繋がるし、
経費節減にもつながる。

【修正】（上田豪副理事長）植物はカタカナ表記としてほしい。

【答弁】（瀧原勇理事）紙の節減、カタカナ表記そうしていきたい。

第３号議案、第４号議案は過半数の賛成により承認された。

上田副理事長

本田理事

佐々木監事

牧野理事

山川会員

山下理事、

橋木啓子会員

大東会員

小島理事

諸冨理事

川崎会員

◎第５号議案　役員改選について小島和江理事が提案を行った。

退任役員・理事堀口信次、新任役員・理事諸冨真澄

第５号議案は全員の賛成により承認された。

【挨拶】（諸冨真澄理事）

◎第６号議案　定款変更について小島和江理事が提案を行った。

住居表示の変更

【提案】（川崎会員）内容がほぼ同じ。新しい項目が入ればいいのでは。

【答弁】（瀧原勇理事）外向けにやっていこうとしている。皆さんに来年の総会ではご報告したい。

第６号議案は、再度全員賛成の挙手で承認された。

議長は以上をもって特定非営利活動法人自然と緑の第２６回通常総会に関する全ての議事が
終了し、議事運営・資格審査委員の任務を解き降壇した。

閉会　司会者瀧原勇理事より閉会の挨拶。　　１６時２０分閉会。　　以上

森林の生態に関する自然大学の講義をはじめて担当して

大阪公立大学大学院理学研究科　教授　伊東　明

2024 年４月に「森林の生態―その多様性・進化・機能・保全―」というタイトルで「自然大学」の講義をはじめて担当しました。昨年まで京都大学の神崎護先生が行っていた講義を引き継ぐ形でお引き受けしたものの、私は神崎先生のように世界中の森を見てきたわけでもなく、森の動植物について博識でもありません。さて、何を話そうか・・・、とずいぶん悩みました。結局、私自身がこれまで研究してきた熱帯林の「生態学」「進化学」という学問の概要と森林がなぜ大切なのかを伝えることを目指して話すことにしました。しかし、専門用語が多くて固い話になってしまったこと、欲張っていろいろ盛り込み過ぎてしまったこと、準備不足でわかりやすく丁寧に話すことができなかったこと、など反省しきりです。大学生向けの講義は長年してますが、市民向けの話には慣れていない私にとって、とても難しくて、しかし有意義な経験でした。日頃から学生には、自分の研究の面白さと意義を真剣に考えて、わかりやすい言葉で伝えることの大切さを説いてますが、私自身まだまだ修行が必要だと実感しました。それでも、皆さん大変熱心に講義を聞いていただき、するどい質問や感想もいただきました。また、講義後にはスタッフの方々と居酒屋で楽しい時間を過ごさせていただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

第 26 回総会にて、高田七重さんが副理事長を辞任されました。新たに牧野道夫さんが副理事長に、諸富真澄さんが理事に就任されましたのでご挨拶をいただきました。

自然と共に

高田　七重

「自然と緑」とのかかわり約 30 年、我ながら驚きです。自分の余暇をすべて自然との交わりに費やし、自身の健康も活動する事で維持できていると自己分析しています。
地球全体のすべてを考えた「自然と緑」のすばらしい理念に導かれ、行事には幅広く参加し、会の理念、実践を学びました。毎回、どの活動でも何かの発見があり、楽しく有意義な時間を過ごさせていただき、感謝しています。すべてが生きる力となり、健康の源となりました。
地球環境は悪化し、私たちの活動がどれだけ効果を生むのか疑問ばかりですが、「継続は力なり」を信じて今後も行動していく事を心がけています。長年のご指導ありがとうございました。

副理事長就任にあたり

副理事長　牧野　道夫

若い世代に運営を託したいとこの度、高田七重さんが副理事長を退任されました。長年に渡り自然と緑を牽引されて来た功績を思うと、バトンを受け継いだ者としては大変な重圧を感じます。ましてや若くもない私などで良いのでしょうか。この会も３０年近くにわたり創成期のメンバーが中心となり運営して参りましたが、理事の顔ぶれも、今では自然大学の１５期生以降が大半となり、大きなうねりの時期に差し掛かっております。創成当初の「地球環境を守ろう、自然を愛し、そして楽しもう」の理念を踏まえつつも、存続のためには新しく時代に合った事業展開をしなければならない状況下に置かれています。次の世代へ託すためにも、新しい事業を開拓してみたいと思っております。

理事就任のご挨拶

諸冨　真澄

この度、理事に就任致しました諸冨真澄です。今年度よりステップアップ講座を担当しております。自然大学の２１期生として加入し、先輩諸氏の深い見識と親切な助言を頂いて、リーダーを経験し、ホームページ作成や企画グループにスタッフとして携わっています。ステップアップ講座では、私自身も刺激を受けながら自然大学に入られた方々が継続して楽しんで頂けるような企画を模索しています。宜しくご指導方、お願い致します。

渡辺弘之の未解決事件簿（19）　奄美大島にはモダマは本当に一本しかないのか？

自然大学学長　渡辺 弘之

奄美大島・住用のモダマ

奄美大島の中ほど、太平洋側にある住用川河口に発達したマングローブは素晴らしく、奄美大島を訪れる観光客には、まず、ここは外せない。ここには沖縄本島では絶滅したリュウキュウアユも生存している。このマングローブの反対の山側、東仲間集落の裏山に世界最大のお豆、モダマの巨木（といっても、蔓であるが）がある。奄美市指定文化財だが、観光パンフレットにも掲載は少なく、車で近くまで行っても、残念ながら交通標識は不親切だ。

奄美大島のモダマの根元

「モダマ自生地」の標識とともに、ここは「集落の水源地」との標識がある。階段を下りると、天にも昇る龍とも表現される巨大な渦巻きのつる（蔓）、それに絡まる無数の大小のつるがぶら下がる。淵には小さな二つの滝が落ちている。「モダマ自生地」の案内によれば、根元のとぐろは周囲 6m だとしている。しかし、樹木のような樹幹ではない、どこをどう測ったのか、とてもこんな値は出そうもない。それはそれとしておくが、驚くのはこのつるが全山を覆い、車道の上を越え、谷川を越え、大きく張り出していることだ。山の斜面全山をこのモダマが覆うさまを見ても、樹冠幅は日本一ではないかと思った。

モダマ（藻玉）

モダマ（藻玉）（*Entada* 属）はマメ科のつる植物、この仲間はアフリカ東海岸から東南アジア大陸部、南太平洋諸島の海岸やマングローブの中に分布するとされる。日本では屋久島以南、沖縄本島、八重山諸島に分布する。環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧 1A(ER)の指定になっている。特徴は何といっても、大きなさや（莢）とその中に入っている巨大なマメだ。さやは大きなものでは長さ 1.5～2m、幅 10～15 cm にもなり、大きく膨らんだところに、厚さ１cm、直径 5cm 近い大きなマメが 10～15 個も入っている。

モダマのさや（西表島）

マメは一ヵ所が少し凹み、ハート形で黒く艶がある。軽く水に浮き、海流に運ばれる。海岸に流れ着いたとき、海藻が着いているので「藻の玉(藻玉)」と呼ばれた。海岸に流れ着く珍しいものであったので、その存在は古くから知られていたようだ。太平洋側では千葉県、日本海側では新潟県までの海岸への漂着が記録されているそうだ。

案内板には、このモダマの樹齢は書かれていない。案内板は汚れ、字が読めないのだが、笹森儀介『南島探検』や名越左源太『南島雑記』に、この住用のモダマについての記載があるそうだ。笹森儀介はもと弘前藩士、明治 26 年（1893）、明治政府により南西諸島の視察を命じられ、その復命書の中の記述である。それから 130 年ということになる。名越左源太は幕末の薩摩藩士、嘉永 5 年（1852）ころ奄美に蟄居させられた時代に書き残したきれいな絵付きの人々の暮らしを記録したものである。この中に見回り役が２人いたとか、モダマのマメを薬入れや硝煙入れに使っていたとの記述があるそうだ。当時から大きなつると

して認められ、そのマメが利用されていたというのだから、それから170年ということになる。現在の樹齢は300年といいたいところだ。

本当にたった１本か？

この奄美大島・住用のモダマがたった１本だということにどうも納得がいかない。山側は急峻で、毒蛇ハブが守っているといわれるので、とてもは入れないが、下の舗装道路沿いでは大きなさやがぶら下がっているのが見える。果実・種子ができているのである。花は6月ころだが、目立つものではない。さやは10月にはまだ未熟、緑色だ。春、2，3月には褐色になった大きなさやぶら下がっていた。種子は発芽するとされる。

樹冠が広く地表を覆うところでは種子が落下しても発芽・生育しないことはよくある。このモダマの種子は軽く、水によって運ばれる性質を持ち、ここは集落の水源地で川がある。川の水に運ばれ海へたどり着けば、遠くまで運ばれる。奄美大島にたった１本でなく、奄美の海岸のどこかに生えていてもいいはずである。先の『南島雑話』にはここから少し離れたところに藻玉山という記載が２ヶ所ある。このことから当時ほかにもモダマがあったと推測される。

同様に、水で運ばれるサキシマスオウノキは住用のマングローブの中にあるが、その種子は瀬戸内町のホノホシ海岸にも流れ着いていた。考えてみると、住用・東仲間のモダマは海岸でなく、かなりの山側にある。海岸に流されてきたとも思えない内陸である。だれかが植えたものではとも思えてくる。東仲間の集落にはモダマのマメやさやを売っている店がある。開いているのは2，3月のことだったが、同行者に知らせたら、先を争ってお店に入り、すべてを買い占めたことがある。しかし、環境省での絶滅危惧種の指定で、ここの標識にも種子を採取することは違法、採取には「奄美市文化財保護条例に基づき許可を得る必要がある」とされている。集落の人たちには許可されているとも思えない。どういうことだろう。

コウシュンモダマ（ヒメモダマ）

奄美大島のモダマを含め、南西諸島のモダマは環境省レッドデータブックではコウシュンモダマ（ヒメモダマ）（*Entada tonkinensis*）とされている。先に述べたように、このマメはハート形で黒く艶のあるものだ。ボルネオ島北部のマレーシア、サラワクのムル国立公園へ行ったとき、先住民の市場を覗いたら、モダマで作ったネックレスやアクセサリーをたくさん売っていたが、それは奄美大島のものと同じく薄く黒く艶のあるものだった。同種だと思った。

ヒメ（コウシュン）モダマのマメ

沖縄の石垣島・西表島にも確かにモダマはあるが、ここでは売れるほど多いのか、お土産屋さんでモダマのマメやさやを売っていた。これらは東南アジアからの輸入ものではないかとも疑った。ネットで見ると、マメが1個780円、さやは小さいもので9,800円、12～14個の連玉で21,800円、15～17個の大きな連玉で32,800円とあった。かなり高価なものだ。

タイのモダマ

私自身はモダマには古くから親しんでいる。タイ中部のカオヤイ国立公園や北部チェンマイ郊外の森林にモダマがあり、自分自身でたくさんのマメを拾ったことがある。タイではモダマをサバ―と呼んでいた。子供が拾ってビー玉のように、相手のモダマに当てて遊んでいたし、マメの中に棒を通し、コマを作っていた。

タイのモダマのマメ

大勢での自然観察旅行で樹上を這うモダマを見つけ、あのつるの下にモダマのマメがあると教えると、キングコブラがいるかも知れない森の中へ突進していた。幸運にも拾えた方はマメに穴をあけ、ネックレスに加工し、うれしがって胸にぶら下げている。

拾えなかった方を有名なチェンマイのナイト・バザールに連れて行った。この場末に麻袋に大量のモダマのマメを入れて売っていたのである。2010年当時のこと、マメは1個せいぜい3バーツ（30円）程度であった。しかし、奄美大島のものとかたちがちがう。もっとまん丸く、厚さも1 cm近くある。色も茶色で艶がない。明らかに別種だ。タイには2種あるようだが、タイの植物誌（Smitnand,T.： Thai plant names, 1980）によるとサバーと呼んだものは*Entada phaseoloides*のようだ

奄美大島のモダマが本当にたった１本しかないのか、気になる。

第 28 期自然大学　春日山照葉樹林生態実習感想文(抜粋)　　2023. 5. 8
前迫ゆり教授（奈良佐保短期大学教授　副学長）

≪１班≫

〇春日原生林が奈良公園のすぐ近くにある事は知らなかったので、良い場所を知った。また行ってみようと思います。最も印象的なのは、シカと原生林も含む奈良公園の存在。特に奈良公園はディアラインを明確に見る事ができ、又、芝刈りが必要なく、シカが芝の花を食べ、それを糞にしてフンコロガシが地面に埋めるといった、芝の景色がそれらの関係でできているのは興味深かったです。今、京北の家の前には常に 10 頭ぐらいのシカの親子が草を食べていますが、彼らと自分の暮らしはどの様にあるべきなのか？と思いました。　**前迫教授➡**

〇春日山原生林のシカの食害の事はかなり以前から知っていましたが、ナギがあんなに繁殖力が強く、風散布で勢力を伸ばしているとは知りませんでした。今回、若草山の頂上まで初めて上り、地面すれすれに伐られたナンキンハゼが旺盛にひこばえを伸ばしているのを見て改めて大変なことになっていると思いました。里山の 10 年～20 年の更新に比べ、およそ 180 年周期の台風などによる自然ギャップを待っての更新では、照葉樹林の存続はむつかしいのではないか、という危惧を抱きました。大荒れの天候ではありましたが、現地に足を運んで観察することの大切さを改めて思いました。鶯塚古墳から奈良盆地を見下ろしながらの寺院や宮殿の材木をどんなルートで運んだかのお話も興味深かったです。

≪２班≫　　**渡辺学長のイチイガシとディアーラインの話（飛火野）➡**

〇昔からよく訪れた事があり、阿倍仲麻呂の「あまの原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」（古今和歌集）、で有名な、奈良公園・若草山・春日山の周辺に「原始林」が存在して、かつ、人間とシカが永い時間をかけて特殊な「ナギ林（群落）」を形成してきたことを初めて知り、とても興味深く思いました。私たちの住んでいる都市のすぐ近くで、また、全国的にも増えつつある在来種の「ニホンシカ」との共生は、人間と自然のバランスの取れた環境やあり方を考える上で、地域別に具体的な取り組みを要する事例のひとつだと思いました。　前迫先生他、自然大学の諸先生方及び事務局の皆様には深く感謝申し上げます。特に、実習終盤は、雨と強風という悪天候でしたが、最後まで全力のサポートをいただき誠にありがとうございました。

≪３班≫　　**前迫教授から照葉樹林の説明を聞く➡**

〇手をつけられず巨大化した木々に多く出会えたことがとてもうれしかったです。とても豊かな森に見えましたが、シカの影響により植物の種類が他の地域の森よりも少ないことには驚きました。このようにシカと動物が生態系へ大きな影響を与えていることが今回の観察会で一番興味深かったです。今回、シカの影響を受けた照葉林とシカの影響を受けていない照葉林とを比較して見てみたいと、今ふりかえって思っています。比較したデータだけでも（植物種の数など）、もしシカがいなければナギはこれほど多くはならなかったのだろうか？疑問がわいてきました。

【回答】ナギは本来、奈良の地には自生していない常緑針葉樹ですので、シカがこれほど多くなければ、自ら繁殖してこのように拡大することはなかったと思います。

事実、このようにナギが群落を形成している地は、日本にはありません。シカが過密度状態で生息することにより、ブナ科の樹木は採食され、ナギが採食されないため、高木種の競争相手がないことで生育地を拡大させたと考えられます。

ナギ林の形成について話を聞く➡

【これなんだろう・何故だろう】

左はケヤキ、中はクスノキ、右はシラカシ。　何れも上が普通の大きさ。

これは、何れも河南町のさくら坂住宅地内で撮影したものです。何れの樹種も葉の大きさが４倍もの開きがあります。何故でしょうか。

（答えは8ページをご覧下さい）

経法大里山整備に初参加（2024 年 4 月 16 日）

第 29 期自然大学　リーダーをされている中田 多喜子さん
経法大里山整備に初参加の感想文です。

インタビュアー　自然と緑広報　小島 和江

初参加の経法大整備。朝、集合場所がわからず、お騒がせして、申し訳ございませんでした。森に入る道もよく整備されていて、シュンラン、キランソウ、ウラシマソウなど、解説していただきました。真竹と破竹の見分け方、細工がし易い特徴を持つ破竹を残し、ゆくゆくは茶匙を作る予定とのこと、それがどこからか、茶筅を作る。に変化していたのは面白かったです。茶筅、それはかなり難しそうですね。剪定バサミを使うために、右手の握力、踏ん張るための足腰の力を鍛えておかなければいけないこと、ノコギリの扱い方を知ることなど、自分の課題も盛り沢山です。

小屋の横に広場を作る！と、整地作業活動されている姿や、登山道をきれいに整備されていること、月にたった一回の活動でも、地道に努力をされ、継続することの大切さに感動。倒れていた竹林をみんなで伐採して、きちんと水平に並べられた様子を見て清々しい達成感を感じることができました。夢中になって作業する楽しさを味わうために、また、参加させていただきたいと思います。お世話になりました。

中田 多喜子

新刊紹介

伊藤吉夫　著

『関西の山野草自生地巡り』

A4 版、カラー、156 ページ
発行 2024 年 4 月、定価 2,000 円

※注文は自費出版につき、
　下記へ直接問い合わせ下さい。
〒669-1546 三田市弥生が丘 2-24-10
伊藤吉夫　電話 090-1955-3058

（紹介：自然大学学長　渡辺弘之）

写真の葉を取ったケヤキ。右は強剪定の木。

【７頁の答え】植物の葉は炭酸ガスと水から、太陽光のエネルギーを使って光合成をしていることはご存知ですよね。7 ページ写真の上の葉は何れも剪定をせずに大きく育った木(左写真)の葉です。下の葉は、強い剪定をした木(右写真)の葉です。通前年伸びた枝の葉の付け根に次の年の芽ができて成長して葉が出来るのですが、強い剪定をすると前年伸びた枝は切ってしまうので、幹や太枝から直接芽が出て枝が伸びてから葉が出来るため、葉が出来るのが遅くなります。葉の出来るのが遅くなった分だけ光合成をする期間が少なくなります。そのため葉の面積を大きくして、光合成の量を多くするのではないかと考えています。

自然と緑の活動報告　2024年4月～2024年6月

◇4/21（日）　‥‥ 自然と緑の自然観察会「せんなん里海公園」12 人
◇4/28（日）　‥‥ 第29 期自然大学　野外実習「長崎海岸」‥‥ 43人
◇4/29（月･祝）　‥ 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 22人
◇5/4（土･祝）　‥ 自然と緑の自然観察会
「新宮晋の風のミュージアム」‥‥‥‥‥‥‥ 24人
◇5/9（木）　‥‥‥ 5月期理事会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 14人
◇5/11（土）　‥‥ 武庫川探訪自然観察会「第10回」‥‥‥‥‥‥ 18人
◇5/12（日）　‥‥ 第29 期自然大学　野外実習「春日山」‥‥‥ 46人
◇5/18（土）　‥‥ 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森「植物調査」‥‥‥ 6人
◇5/19（日）　‥‥ ステップアップ講座野外実習(1)「錦織公園」19人
◇5/21（火）　‥‥ 大阪経済法科大学里山整備‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 10人
◇5/25（土）　‥‥ 地学的むかし散歩「第9回」‥‥‥‥‥‥‥‥ 19人
◇5/26（日）　‥‥ 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 17人
◇6/1（土）　‥‥‥ 第26回通常総会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 34人
◇6/8（土）　‥‥‥ 自然と緑の自然観察会
「兵庫県立三木山森林公園」‥‥‥‥‥‥‥‥ 17人
◇6/9（日）　‥‥‥ 第29 期自然大学　野外実習「金剛山」‥‥‥ 27人
◇6/13（木）　‥‥ 6月期理事会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 15人
◇6/15（土）　‥‥ ステップアップ講座野外実習(2)
～16（日）　　「馬ヶ瀬山間伐」‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 17人

【 寄 付 等 の 御 礼 】

いつもありがとうございます

＜切手、ハガキ、現金など＞

5 /18 寄付　堀口信次様
6 /13 寄付　濱西陽子様

（順不同）

ご寄付は下記まで お願いします

ゆうちょ銀行口座名

特定非営利活動法人　自然と緑

口座記号00900－7

口座番号150942

ホームページ

「NPO法人自然と緑」のホームページはFacebookも併設、楽しい写真や情報満載です。是非覗いて下さい。

右記のQRコードに アクセスして下さい

★編集雑記

☆最近、農作物がこれまで収穫されてきた時期に収穫できなくなっている。

☆例えばキャベツが暖冬で早く採れるようになったかと思えば、春先に急に低温により小型化したり、根元から測枝が出来たりして、商品化できずに棄てる羽目になったりし、スーパーで二～三倍に値段が上がっている。

☆一方種々の軟弱野菜などは、暖房された温室内で年中収穫され、出荷されている。

☆また、種々の農作物は海外から輸入され、これも日本の季節とは関係なくスーパーに並ぶ。

☆このような状況では日本のある季節だけに収穫できて、食べられる旬と言われるものが無くなってきていて、旬以外のときに食べても美味しさが無くなってきている気がしてならない。

☆日本の農作物等の自給率が十%を切っている状況からすると、温暖化が続けば、何時飢餓が訪れてもおかしくない、と怖い気がする。

（ワンワン）